



横浜市立一本松小学校

5月号

# 学校だより

横浜市立一本松小学校

校長 高桑 透

令和6年4月30日



## 『百聞は一見に如かず』

校長 高桑 透

新しい年度がスタートして1か月が経ちました。新しいクラス、新しい環境にも慣れて、落ち着いて学校生活を送っているようです。学年が一つずつ進み、学習内容がレベルアップしていますが、子どもたちもしっかりレベルアップして、意欲的に学習に取り組んでいます。1年生も学校生活のリズムに慣れ、これから行われる授業参観でも、生き生きと学習に励む姿を見ることができると思います。

先日、5年生と一緒に自動車工場の見学に行きました。学習のねらいは、自動車がどのように作られているのか、生産性を高めるための工夫や、工場で働いている人の思いや願いについて知ることです。

ここ数年のいろいろな技術の進歩もあり、また感染症の影響で特にネット環境は大幅に改善され、よりたくさんの情報が世の中にあふれるようになりました。自分が知りたいことがあれば、ほとんどのことがネット上で調べることができます。それは子どもたちにとっても同じです。タブレットでの調べ学習が日常的に行われるようになり、例えば自動車生産について調べれば、写真資料だけではなく、自動車の生産工程の動画や、自動車工場見学のバーチャルツアーなども用意されています。しかしそれでも実際に現地に足を運び、自分の目で見て、自分の手で触れてくることには大きな意味があります。見学している子どもたちの様子を見て、改めて感じることができました。

子どもたちは、工場に一步踏み入るとすぐに、「変なおいがする」とロク々に言っていました。機械オイルやほこりなどのおいでしょう。大人なら、工場の中のおいということで、当たり前を感じるかもしれませんが、子どもたちにとっては大きな驚きであり気づきとなります。その他にも、部品を運ぶ台車のモーターの音や、ロボットが動くときの音、ボルトを締めるための電動工具の音など、細かいところにもよく気づき、疑問に思ったり感心したりしています。その気づきこそ、知的好奇心であり、学習への意欲に直結しています。

また、午後にはものづくりについても学びました。1台の車を早く正確に作るための工夫について、グループでブロックの車を組み立てることを通して考えました。電動工具でボルトを締める体験、きれいに色分けして塗装するための下準備体験、ものを見ないで手の感覚だけで3つのボルトを掴む体験など、工場で働いている方と同じような作業を実際に体験することで、短時間で正確に作業することの難しさや、技術の高さを感じるようになりました。

「百聞は一見にしかず」とは、人から何度も聞くより、実際に自分の目で見たほうがよく理解できるという意味の言葉です。百回聞くよりも、たった一度でも自分の目で見るということが確かだということを表しています。これからも、子どもたちが実際に目で見て体験する活動をできるだけ多く取り入れていきます。多くのものを見て、たくさんのことを感じる経験をすることで、子どもたちの興味関心が広がり、それぞれの未来や大きな夢につながるきっかけになればと思います。

